

現在の学校事情と「友の会」に望むこと

高知市理科教育研究会 会長 副 田 謙 二

1 はじめに

私は、小さい頃から野山で遊ぶことが好きで、折りたたみのナイフを持って近くの山で基地遊びなどをしていました。そのような体験の中で、口にしてよい植物（草や実など）とそうでないものといったことを自然に知りました。大学でも植物の勉強をしまし、現在でもこうして理科教育に関わることをさせてもらっています。



2 教育を取り巻く現状

現在私は、小学校で勤務しております。学校教育は、社会と密接な関わりがあります。現代社会は、動きが激しく先行き不透明と言われており、財政危機（不景気）、情報化、国際化といった大きな流れの中でゆれ動いています。

こうした大きな社会状況の変化によって、学校教育を取り巻く状況にも変化がみられます。例えば、保護者の価値観の多様化です。多様化と言うと響きは良いのですが、言い換えれば個人主義、利己主義、権利意識の拡大です。また、家庭における教育力（いわゆる躰）の低下、児童虐待、生活スタイルの変化（生活の乱れ、崩れ）といった課題もあがってきています。

このように社会が変化している中、国においても20年以上も前から教育制度改革の動きがあり、「臨時教育審議会」（1984）、「教育改革国民会議」（2000）、「教育再生会議」（2006）といった会議で、21世紀を支える人材育成、社会が求める人材を育てるための方法について議論されました。

3 国の教育政策の変化を受けた学習指導要領の改訂

一連の国の教育政策が進められ、学校教育の基準となる学習指導要領が改訂され、本年4月から小学校ではその内容に基づいて作られた教科書を使った学習が始まっています。来年4月には中学校でも教科書が新しくなり、従前の「第一分野」「第二分野」というくくりがなくなります。

この学習指導要領の特色は、次のようなものです。

○思考力、判断力、表現力の育成

○伝統や文化に関する教育の充実 … 文化遺産や地域の歴史学習、中学校で武道

○道徳教育の充実 … 道徳教育、キャリア教育、人権教育の推進

○健やかな体を育てる … 食教育、生活習慣、運動環境の整備

○理数の力を育てる … 内容、時間数の増加

○外国語教育の充実 … 小学校5・6年生から外国語学習

○体験活動の充実 … 宿泊訓練、職場体験学習など

○社会の進展(変化)に対応した教育を行う … 環境、食、家族、消費者、情報等

文部科学省は、「生きる力」の育成(確かな学力、豊かな人間性、健康・体力)が理念と説明をしています。

この学習指導要領の改訂の最も大きな特色は、授業時間数が増加したということです。低学年では、週2時間(国語や体育)、中学年以上では週1時間(理科、算数、外国語活動)の時間増がなされています。高学年や中学校で1時間の増加ということですが、週5日制では毎日6時間学習したとして、30時間が最大ですのでほとんど空いた時間がなく、学校行事の実施を考えると、たいへん窮屈となっています。時間数の増加=指導内容の増加ですので、教員の中には多忙感を感じているものが増えていると心配をしています。

今回の改訂で、小・中学校ともに時間数が増え、私たち理科好きの教員にとってはうれしいことではありますが、小学校1、2年生では「理科」ではなく20年前に導入された「生活科」ですので9年間通しては理科学習ができないという状況です。

4 高知市理科(科学)教育研究会の活動

私が所属する理科教育研究会の活動としては、教科に関する専門的知識、技能の習得のための研究・研修があり、「授業研修会」(夏休み研修会、研究発表会、授業発表など)、実験観察の技能を高めるための「実験講習会」、フィールドワークを行う「臨地学習会」を行っています。

また、児童、生徒を対象とした理科に関する事業や催しとして、「夏休み子ども教室」(自由研究のしかた、科学工作、植物採集、標本展示と標本に名前をつける会)、夏休みの自由研究や科学クラブ等の研究を発表する「科学発表会」、さらに研究物を審査して展示・表彰を行う「小中学生科学展覧会」を実施しています。

科学展覧会は本年度で64回目となります。高知市教育研究会と高知市教育委員会との共催ということで伝統のある催しとなっております。

5 友の会に望むこと

本題である友の会に学校現場としてお願いしたいことについて触れてみます。次にあげることは、理科の研究会で話し合ったことではなく、私の個人的な考えとして受け取っていただきたいと思います。

これまで述べてきましたように、学習指導要領の改訂による指導時間数増、社会の変

化に伴い学校で扱わなくてはならない内容（環境、情報、消費者、税、食、薬物濫用防止等々）が増えてきており、学校現場はたいへん時間的にも余裕が無くなってきています。また、教科担任制である中学校とは異なり、小学校では全教科を学級担任が教えるシステムとなっています。小学校では、文科系の教科を得意とする教員の数が圧倒的に多いという特質もあり「理科は苦手」と思っている教員が多くおります。

このような学校現場の背景があることを前提に次のような提案をいたします。

- ① 小中学校理科に関する「友の会」独自の催しを創設する
- ② 放課後児童クラブの児童を対象とした巡回科学教室を開催する
- ③ 理科学習の準備等を行う補助者として、学校に人員を派遣する
- ③ 科学発表会や科学展覧会の審査員を派遣する
- ④ 教員対象の実験講習会や臨地学習会の講師を派遣する

6 おわりに

「現在の学校事情と『友の会』に望むこと」という内容で、学校サイドの視点で好き勝手な意見を述べさせていただきましたが、お許しをいただきたいと思います。

友の会の会則にある「理科教育の推進と援助」に関しては、学校としましてもたいへんありがたいことであると考えており、可能な範囲でご支援いただきたいと思います。